

「アフリカの真珠」ウガンダより 2024 年(令和 6 年)8 月

8 月も半ばを過ぎると雨季の走りでしょうか、カンパラも雨が降り出します。今月初めの集中豪雨によりカンパラ郊外の廃棄物処理場で土砂崩れが起こり、多数の住民が亡くなるという痛ましい出来事がありました。犠牲者のご冥福をお祈り申し上げますとともに、遺族の方々、関係者にお見舞い申し上げます。

1. JUSTフォーラムの開催

8 月 1 日に大使公邸にて、初めての試みとなるジャスト・フォーラム(Japan Uganda Science and Technology Forum: JUST Forum)を開催しました。日本からの参加者も含め 7 社が参加。スタートアップ企業を始めウガンダで奮闘する日本企業をウガンダの関係者にご紹介し、交流を図ることが目的です。ウガンダ側から約 50 名の参加を得ました。以下に参加企業をご紹介します。(会社名アルファベット順。)

●Ac-Planta Inc. (読み方はアクプランタ)

日本の理化学研究所発の農業系スタートアップ。肥料ではなく、植物に酢酸を与えて遺伝子を活性化するという新しい発想の製品です(製品名:スキープン)。干ばつや日照りに対する植物の耐性が高まる効果があり、ウガンダでどのような効果があるか実証しています。ウガンダはアフリカでも有数の農業国です。参加者の皆様の関心も高くブースは盛り上がりを見せていました。

●cfao (豊田通商株式会社)

豊田通商はアフリカ事業に本腰を入れるべく、アフリカ事業本部を置いています。同社のモットーは「アフリカとともに、アフリカのために(With Africa For Africa)」。

自動車販売のみならず送電線などのインフラ事業、医薬品などのヘルスケアにも力を入れています。今回のイベントではハイブリッド車を展示。ウガンダ政府を始め、関係者は高い関心を寄せていました。また同社は電動バイク事業にも出資しており(ZEMBO)、環境問題に貢献することも期待されています。

●Gots Gots Ltd. (読み方はゴツゴツ)

アフリカでも一流の和食を広めたいとの思いから、レストラン「やま仙」などの関連事業を展開。インド洋に面したタンザニアで漁業者を直接指導し、血抜きなどの作業を行うとともに、瞬間高速冷凍など日本の技術を用いて日本の味を再現。「やま仙」では本格的な和食のお任せコースも提供しています。このような取り組みは現地でも高い評価を得ています。

●CourieMate（ヤマハ発動機株式会社）（読み方はクーリメイト）

ヤマハ発動機を親会社としてラストマイルの商品デリバリーを請け負う配送会社。熟練のドライバーを多数雇用し迅速かつ正確な宅配を実現。住所システムが不十分な地域でも迅速かつ正確な宅配を実現するために、専用開発された IT システムと多数の熟練ドライバーによって、ウガンダ国内すべての地域に様々な配送サービスを提供しています。

●サラヤ株式会社

カンパラから車で 1 時間ほどのジンジャに製造拠点を構える同社名は現地では手指消毒液の代名詞となっています。コロナ禍に際しては同社工場が 24 時間稼働し、早期に感染爆発が抑制されました。現在は大日本除虫菊との共同によるマラリアなど蚊が媒介する病気の低減や、顧みられない熱帯病に分類されるスナノミ症治療薬を世界で初めて開発し、ウガンダでの製造を進めています。

●株式会社 Sunda Technology Global（読み方はスンダテクノロジー）

JICA 海外協力隊(旧・青年海外協力隊)としてウガンダの農村で生活した経験から、コミュニティーの生命線とも言える手押し式ポンプの効率的使用を図るシステムを開発したスンダテクノロジー。農村地区でも携帯電話で電子マネーのやりとりが普通に行われているのを見て、ビジネスへの展開を着想されました。太陽光パネルや水管理システムは独自の開発。今回のフォーラムでは、難民地区で展開する国連関係機関も深い関心を寄せていました。まずはウガンダで千台の普及を目指しています。

●WASSHA Inc.（読み方はワッシャー）

スワヒリ語で明かりを意味するワッシャー。廉価で高性能、携帯の充電にも使えるランタンを一夜貸しで貸与。起業から 10 年以上をかけて、今では、タンザニア、ウガンダ、コンゴ民主共和国などに数千の協力店舗(キiosk)を持っています。まさしく地元パートナーと協力して汗で築き上げたネットワーク。このような強力なネットワークをアフリカに有する日本企業は現状、同社だけではないでしょうか。

イベント会場では、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と cfao・豊田通商・トヨタが協力して難民としてウガンダに避難した女性をエンジニアとして訓練する取り組みも紹介されました。現在すでにエンジニアとして技術を身に付けた女性 2 人の挨拶も受けました。このように日本企業は、国連機関、ウガンダ政府機関とも協力し社会問題の解決にも熱心です。



[職業訓練を受けた難民女性と]

今回の試みは初めてのものでしたが、これからもアフリカに展開しようとする日本企業への支援を政府・大使館として続けていく所存です。



[JUST フォーラム開催の様子]



2. ファーム・オブ・アフリカ訪問

ボランティアなどとして、以前から足しげくウガンダを訪問していた岡野さんがカンパラ郊外で農業を始めたのは今から5年ほど前のことです。土地の購入から土地整備、用水路の確保など困難な準備期間を経て、現在カカオやバニラを栽培しています。私が訪問した時はバニラの加工・選別作業の最中でした。

私も知りませんでしたが、バニラの実グリーンピースのように緑色で細長い形状です。これを茹でた後、発酵と乾燥を半年以上かけて行い、製品化するのです。世界的にはマダガスカルのバニラが圧倒的なシェアを誇りますが、ここウガンダの気候もバニラ栽培には適しているとのことで品質の改善に常に取り組んでおられます。

カカオは言わずと知れたチョコレートの原料。日本人にとってはカカオと言えばガーナです。ファーム・オブ・アフリカは日本人で初めて、ウガンダでカカオの農園と加工を始めました。チョコレートの原材料として出荷され日本では高級チョコレートメーカーが原料として使用される、いわゆるカカオ豆。そのほか、非常に手間のかかる手作業でカカオ豆表面の薄皮を取り除き、珍しい非加熱のカカオ豆そのものも製品にしています。砕いてシリアルや食感を高めるための素材となります。バレンタインデーなどにはナッツのようにそのまま食用に供するか、表面を薄くチョコレートでコーティングした高級食材の原料としても出荷されています。

農産物の高付加価値化はウガンダ農業の長年の課題です。ファーム・オブ・アフリカは高付加価値化をまさに実践しているといえます。



〔従業員の皆さん〕



〔カカオの実と岡野さん〕

（以上）